

氏名	難 波 晃
学 位 の 種 類	医 学 博 士
学 位 授 与 番 号	乙 第 1578 号
学 位 授 与 の 日 付	昭和60年 9 月30日
学 位 授 与 の 要 件	博士の学位論文提出者（学位規則第 5 条第 2 項該当）
学 位 論 文 題 目	ドナー B 細胞移入によるラット移植心の active enhancement 誘導の試み
論 文 審 査 委 員	教授 寺本 滋 教授 粟井通泰 教授 木村郁郎

学位論文内容の要旨

純系ラットを用いた心移植の実験系において、active enhancement の誘導を試み、更に enhancement を誘導する因子について、MRL を用いて検討した。心移植は、まずドナー由来の脾細胞をナイロンウールカラムを通して T 細胞 enriched 分画（以下 T 細胞）、B 細胞 enriched 分画（以下 B 細胞）に分離し、それぞれの分画で心移植の実施 7 日前にレシピエントを免疫し移植を行い、その生着延長効果を検討した。T 細胞投与群では、移植心の生着延長効果は殆んど認められないが、B 細胞投与群では無感作コントロール群に比し著明な移植心生着延長効果を認めた。MLR はレシピエント、ドナーの頸部リンパ節より採取したリンパ球で行い、これに上記の T・B 細胞で免疫し 7 日経過（移植当日）したレシピエントより採取した血清ないし脾細胞を添加し、その MLR 抑制効果を検討した。脾細胞を添加した MLR では、T・B いずれの細胞分画で免疫した脾細胞も全く抑制効果を示さず、レシピエント脾細胞中には、MLR 抑制性細胞は存在しないと考えられた。一方同様に免疫され、7 日経過したレシピエントより採取した血清を添加した MLR では、T 細胞感作血清による MLR 抑制率が 15.8% であるのに対し、B 細胞感作血清による MLR 抑制率は 71.5% と有意に ($P < 0.01$) 強い MLR 抑制活性を示した。さらにこの MLR 抑制血清因子は、第三者リンパ球を刺激細胞として使用した MLR に加えてもその抑制能を全く示さなかった。以上よりドナー由来の B 細胞 enriched 分画でレシピエントラットを免疫すると、7 日後にレシピエント血清中に強い MLR 抑制活性を有する因子（抗 Ia 抗体）が誘導され、ドナーに対する active enhancement が成立し、移植心の生着延長がもたらされたと考えられる。

論文審査の結果の要旨

本研究はラットを用いた心移植に関する実験的研究であるが、ドナー脾細胞のB細胞分画前投与群において有意に生着延長がもたらされることを認めたものであり、移植免疫学的見地からも重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。